

# 知っちよる? しものせき J'sページ

水産大学校編

このページは、ジュニアのページ(J'sページ)として市内5大学と連携して作成しています。小・中学生、高校生に向けて、毎月、大学のユニークな取り組みや役立つ情報を分かりやすく紹介するコーナーです。記事は、月ごとに各大学が持ち回りで担当しています。

今月の担当は水産大学校です。

## 「カッター」って知っちよる？

海上では風、波、潮の流れを受けるなど、陸上とは異なる環境に

なぜ、カッター？

昔の艦船などに積まれていたオイルを使って海上を漕ぎ進むボートのことをカッターと呼びます。救命艇として、また陸上との往来と共に乗組員の訓練艇としても使われていました。現在では長さ9メートルのカッターによる活動が主流となっていますが、6メートルカッターも女子学生や一般向けに使用されています。(写真1)

カッターとは？

みんな、知っちよる？  
船や水産に関する学校などでは、海上活動に必要とされるチームワークや技術の習得を目的として、カッターを使った教育が行われています。今回は、水産大学校がカッターに関する活動を紹介します。

下関カッターレースでは、海への親しみを育むことを目的として中学生以下を対象としたレースや

の取り組み

水産大学校と吉見小、吉見中

各地で6メートルカッターを用いた市民レースが開催されています。ここ下関でも、平成24年から※1下関カッターレースが開催されています。全国から約70チームが参加する、海の町下関らしい活気のある大会となっています。(写真2)

市民へのひろがり

置かれています。どれだけ科学技術が発達しても、海上活動にはチームワークや自然と調和する技術が欠かせません。カッター訓練には、海上活動の基礎を習得するのに有効な要素が多く含まれ、現在でも重要な訓練の一つとして位置付けられています。

※1 今年、7月15日に開催された市民参加型の祭り<sup>1</sup>で、今年で7回目の開催。36メートルのコースを1チーム8人で漕ぎ、速さを競います。

親子カッターが行われています。水産大学校男子カッター部・女子カッター部は、大会をサポートするとともに吉見小学校5、6年生有志と大会出場に向けて合同練習を行っています。(写真3)

体の小さい小学生は長くて重たいオール取り扱いに苦労しますが、大学生の指導と小学生の努力がマッチすると、オールを見事に操るようになり、カッターが海面を軽快に走り出します。チームワークと技術習得の瞬間です！今年から吉見中生徒が参加し、さらに活動が盛んになりました。(写真4) 皆さんもカッターに乗り、海に漕ぎ出してみてください！



写真1 9人カッター(左)と6人カッター(右)



写真2 下関カッターレース(下関漁港)



写真3 合同練習の様子(吉見湾)



写真4 合同練習メンバー  
(吉見小、吉見中、水大)